

児童養護施設の分園建設に

岡谷で きょうから

チャリティー 絵画展

岡谷市川岸上の児童養護施設「つつじが丘学園」などを



運営する社会福祉法人つるみね福祉会が13、15日、同市テクノプラザおかやでチャリティー絵画展を開く。施設の70

2021年(令和3年) 11月14日 日曜日

周年記念企画で「現代国際巨匠絵画展」と題し、国内外の有名な画家のリトグラフ(石版画)など120点余を並べる「写真」。収益は学園の分園建設資金に生かす。施設は震災孤児らを受け入れるため1951(昭和26)

年に設立。66年にそれまでの塩嶺学園から改名し、現在地に移転した。川瀬勝敏園長によると、施設は常に定員(47人)に近い状況。新型コロナによる経済環境の悪化などを背景に一時利用が増加しており、子どもや親らの支援のため分園建設を目指している。12日は、つるみね福祉会の林新一郎理事長らが市役所に今井竜五市長を訪ね、絵画展を紹介。「子育てしにくい家庭を放っておくことはできない。分園建設に向け、絵画展を生かしたい」と話した。



国内外の作家の多彩な作品が並んだ絵画展

岡谷市川岸上の児童養護施設つつじが丘学園などを運営する社会福祉法人つるみね福祉会の創立70周年を記念したチャリティー展「現代国際巨匠絵画展」(実行委員会主催)が13日、同市本町のテクノプラザおかやで始まった。国内外の有名画家らの作品約120点を展示販売している。15日まで。

会場にはピカソやシャガール、東山魁夷、平山郁夫などの版画をはじめ、現代画家の油彩画、水彩画、日本画など多彩な作品が並んだ。スペインの画家シヨルディ・イセアンさん(52)は、郷愁を誘う油彩の風景画40点を出品。コロナ禍で来

国内外画家の作品展示販売

つるみね福祉会創立70周年記念

あすまでチャリティー展

場はかなわなかったが、会期中、オンラインで来場者と会話する機会を設けている。同福祉会は1951年に創立。一時保護児童の増加に伴い、地域支援の拠点として分園の建設を目指しており、作品販売の収益の一部が建設資金に充てられる。実行委員長の林新一郎・同福祉会理事長は「施設で預かっている子どもたちへの支援の輪を広げる絵画展。学園についてこの機会に知ってもらえたらありがたい」と話している。入場無料。時間は午前10時〜午後6時(最終日は午後5時まで)。(宮沢知史)

著名作家の作品並ぶ

岡谷でチャリティー絵画展

つつじが丘学園

児童養護施設つつじが丘学園(岡谷市川岸上4)の創立70周年を記念したチャリティー

企画「現代国際巨匠絵画展」(市民新聞グループなど後援)が13日、JR岡谷駅近くのテクノプラザおかやで始まった。ピカソやシャガール、東山魁夷、平山郁夫ら著名作家の作品120点余りが並び、初日から多くの美術愛好家が訪れている。同学園を運営する社会福祉法人つるみね福祉会(林新一郎理事長)



特別企画のジョルディ・イセアン画伯の作品を鑑賞する来場者

では、多様化するニーズに合わせた新たな拠点として分園建設を計画。絵画展はその資金づくりとして企画した。

著名作家のさまざまな作品が並ぶ会場の一角では、特別企画として現代スペインリアリズムを代表する若手新進作家ジョルディ・イセアンさんの作品約40点を紹介。当初は本人が来場する予定だった

が、コロナの影響で来日がかなわず、代わりに会場とバルセロナの自宅をオンラインで結び、会期中は1日3回、画面を通してイセアンさんが自ら作品を解説する。

初日は、開場を前に学園関係者に加えて、イセアンさんもオンライン参加して絵画展の成功を願った。同福祉会の林理事長はあいさつで、「複雑多様化する社会の中で、さまざまな子育ての問題が当地方にも起きている。チャリティー絵画展を通じて、学園について踏み込んで理解を深めてほしい。絵画を購入していただくことが学園の運営に寄与す

る」と協力を呼び掛けた。同絵画展は15日(月)まで。開場時間は午前10時〜午後6時(最終日5時)。入場無料。